

## 4年1組 道徳科学習指導案

平成30年6月28日4校時

- 1 主題名 誰に対しても公平に C-(12) 公正, 公平, 社会正義
- 2 教材名 7 となりのせき (東京書籍)
- 3 主題設定の理由

### (1) ねらいとする価値について

本主題では、自分の都合や好き嫌いで物事を捉えず、相手に不公平にならぬよう誰に対しても分け隔てをしないで接する、公正・公平な態度を扱う。集団生活の中では人権感覚を研ぎ澄ませ、公正・公平な態度で誰に対しても接することが人間関係を円満なものとし、差別やいじめ問題などの防止につながることを理解できるようにする。

### (2) 児童について

本学級の子どもたちは、普段の生活において、自分の好みや利害から不公平な行動・言動をしてはいけないと理解できるようになってきた。しかし、実生活でそのようなことに直面すると、公正・公平にすることはまだ難しい。このような子どもたちにとって、自分の思いが優先し、相手に不公平な態度をとってしまう現実を見つめ直し、公正・公平について考え、誰に対しても分け隔てのない心をもつことが大切である。

### (3) 資料について

本資料は、学級の席替えて、主人公が苦手だと感じている友だちと席が隣りになり、思わず取った言動で相手を嫌な気持ちにさせてしまう。その後、友だちへの理解を深め自分の取った態度が正しくなかったことに気づく。物語の中の「先生」の言葉、「みち子さん」からの情報、そして「お母さん」の言葉の3つをポイントに発問を構成し、主人公が隣席になった友だちへの理解を重ねる過程を共感的に捉える事によって、公正・公平の価値に気づき、ねらいに迫るようにする資料である。

### (4) 指導にあたって

学習問題を「公正・公平な態度って なんだろう。」と設定することにより、ねらいとする道徳的価値への児童の追求を主体的にし、問題意識を明確にさせる。指導にあたっては、中心発問のお母さんが言った「もっとだいなこと」について考えるために、それ以前の発問で「先生」の言葉、「みち子さん」からの情報を確実に押さえる。加えて児童自身の生活経験を想起して考える補助発問を準備し、中心発問で狙う価値認識を確かなものとする。また、価値に照らして自分を振り返るために事前調査をするとともに、児童自身が板書を写したり、自分の考えを記し、考える際の補助となるような書く活動を活用する。

### (5) 伝え合い、認め合う授業の手立て

公正・公平に関する中心的道徳価値について児童が気づき、話し合いを深めるために「先生」「みち子さん」「お母さん」とのやり取りの発問について構成を板書に視覚化し、価値への気づき・深まりを構造化していく。教材から離れ、自分たちの振り返りをする際にはグループでの話し合いを取り入れ、具体的な事例を共有し、一人一人が自分の考え、友だちの考えを認め合い、ねらいとする価値について深く話し合えるようにする。学習問題に関する児童自身の考えは、ノートに記し、これを基に友だちとの話し合いをさせ、新たな気づきや修正をさらに書き加えて考えをまとめる助けとする。

4年 教科・領域名 道徳		平成30年6月28日(木) 4校時	
重点 [10のポイント]	8.「理解深化」における課題解決の過程で、ペアや小グループ等を活用して協同的に問題解決できる場面を設ける。	困難度 査定	・自分の思いが優先し、相手に不公平な態度をとってしまう。 ・具体的な自分の生活の場面に置き換えて考えることが難しい。
主題名	誰に対しても公平に C-(12) 公正, 公平, 社会正義	資料名	7 となりのせき (東京書籍)
ねらい	誰に対しても分け隔てをせず, 公正, 公平な態度で接しようとする心情を育てる。		
	教師からの説明 課題提示	児童の学習活動	教師の支援(・)と評価(※)
教える	<b>1</b> 説明 ○予習で読んできた資料の内容を確認する。 ○お母さんの言葉で、なぜ「私」は何度も考えたのでしょうか。	1 公正・公平に併せて考えていない「わたし」に気づく。 2 本時の課題を確認する。	・公正・公平という本質にせまっていない「わたし」がいることを説明する。
	<b>2</b> 理解確認  ○お母さんが「わたし」に言った「もっとだいじなこと」とは、どんなことだったのでしょうか。 ○先生はどんな気持ちから、席替えるときに大切なことは何かをきいたのでしょうか。 ○みち子さんたちの話を聞いた「わたし」は、どんな気持ちになったのでしょうか。	③公正・公平な態度って なんだろう。  3 物語の中の「先生」の言葉、「みち子さん」からの情報、そして「お母さん」の言葉の3つをポイントにして考える。主人公が隣席になった友だちへの理解を重ねる過程を共感的に捉える事によって、公正・公平の価値に気づき、ねらいに迫る。  《先生》 ・不平を言わない。わがまを言わない。 《みち子》 ・たけしさんはいい人だ。 《お母さん》 ・人を分け隔てず、自分の好みや都合で相手を見ず、正しい心と目を持ち人と関わる。	・「先生」「みち子さん」「お母さん」とのやり取りの発問について構成を板書に視覚化し、価値への気づき・深まりを構造化していく。 ・母の「もっとだいじなこと」という言葉をもとに公正・公平という本質に気づき、せまらせる。 ・「先生」「みち子さん」とのやり取りと関連させながら、児童相互が考えを交流し、ねらいとする道徳的価値を捉えるようにしていく。
考えさせる	<b>3</b> 理解深化 ○誰に対しても分け隔てをせず、偏りのない正しい見方をしてきましたか。自分を振り返ってみましょう。	4 普段の自分の生活の中での公正・公平についての事例についてグループで話し合う。	・グループでの話し合いにし、係活動・給食・スポ少・友だちとの遊びなど、具体的な例を想起させ、話し合わせる。 ※公正, 公平の大切さについて、自分の思いや考えを話し合っていたか。
自己評価	<b>4</b> 自己評価  ・公正, 公平の意味を考えて行動したい。 ・人として正しい事を考えて行動したい。 ・集団生活における人間関係を気持ちよく、円満なものにするうえで、分け隔てや偏見があってはならない。	5 公正・公平な態度で接する大切さについて、今日の学習を通して自分の考え(変容)をまとめる。	○まとめて振り返られるように事前調査資料や板書を今一度参考にさせる。 ○公正・公平について正論で行動することの難しさも含め、公正・公平な態度で行動する意欲を高める発展的な終盤にする。 ※誰に対しても分け隔てをしない言動について、自分を振り返ることができたか。